

テレナーシング分科会・Telenursing Special Interest Group

分科会長 亀井 智子

聖路加国際大学大学院

日本語分科会名称： テレナーシング分科会

1.分科会設立の目的

看護職が行うテレナーシングの実践・教育・研究を確立し、普及するための調査研究、および情報発信と交流等を行う。

2.分科会メンバー数 5人

3.令和4(2022)年度の活動の実績と成果

- ・第26回JTTA学術大会シンポジウム5「老年医学会合同企画」において、共同司会、およびテレナーシングの実践について発表を行った。
- ・2022年12月に、第42回日本看護科学学会学術集会集会長を森山美知子氏が務め、広島市にて参加者4,000人を得て盛会な学術集会となった。会長講演では、「研究開発された看護技術を世界に届ける：看護サービスのイノベーション」をテーマに講演を行った。教育シンポジウムでは、「臨床アウトカムをエンドポイントとしたRCT：遠隔看護」をテーマに亀井が講演を行った。パネルディスカッションでは、テレナーシング等の研究・社会実装に関し加澤佳奈氏が講演を行った。
- ・2022年12月～2023年3月に、「テレナーシングガイドライン(照林社)」にもとづき、テレナーシングを普及するためのケアイノベーション研修を開催した。
- ・2022年8月に、コペンハーゲン市において「Digital Health Beyond COVID-19 Lessons Learned International Conference」が開催され、亀井がわが国のテレナーシングの実践と研究成果について基調講演を行った。
- ・日本看護科学学会学術用語集に「テレナーシング」の定義についての追加を提案し、搭載されることとなった。
- ・学術団体からの招請に応じて、テレナーシングに関する講演を行った(日本がん看護学会、都立大学、宮城大学、日本医療情報学会、日本学術会議看護分科会、日本在宅看護学会、日本難病看護学会、Nordic Innovation House、日本看護科学学会、WANS(The World Academy of Nursing Science))

4.令和5(2023)年度の活動の目標と計画

- ・テレナーシングの国内看護実践の普及のため、教育活動、情報提供、国内外の学会等における発信を推進する。

分科会長連絡先：kamei@slcn.ac.jp